

<お知らせ>

従業員とともに阪急阪神沿線の市民団体を応援する 第12回「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」の助成対象団体が決定しました！

「地域環境づくり」と「次世代の育成」に取り組む合計14団体に総額827万円を助成

阪急阪神ホールディングスグループでは、第12回「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」による市民団体の助成プログラムとして、昨年9月より助成を希望する団体を公募し、今般、応募総数87団体の中から「地域環境づくり」と「次世代の育成」に取り組み、国連が提唱するSDGs^(※1)のうち、目標④「質の高い教育をみんなに」もしくは目標⑩「住み続けられるまちづくりを」につながる活動を行う合計14団体^(※2)に対し、総額827万円を助成することを決定しました。



私たちは、未来へつなぐ
「環境づくり」と「人づくり」に貢献します。

この助成プログラムは、当社グループの従業員の募金と当社からの上乗せ寄付を原資に、沿線の市民団体を助成するもので、当社グループの社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」の一環として、2009年度から行っています。過去12年間の助成の累計（今回の助成分を含む）は、延べ149団体・8,806万円となっており、当社グループでは、今後も市民団体への支援を通じて沿線地域の活性化やSDGsの達成に貢献できるよう、本プログラムに継続的に取り組んでまいります。

(※1) SDGsとは「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称。2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟国が2030年までに17分野で社会課題の解決を達成することを目標に掲げている。

(※2) 14団体のうち、10団体は今回新規に公募した団体の中から決定している。残り4団体は第10回からの継続助成団体（2019年度に、最長3年間助成することを決定した団体）である。

概要は次のとおりです。

■第12回の助成対象団体 14団体（部門分野別 団体名50音順）

<新規助成団体> 【地域環境づくり】※（ ）内の市名は団体事務所の所在地

- ① NPO 法人 いけだエコスタッフ（池田市）
- ② 一般社団法人 京都竹カフェ（京都市）
- ③ NPO 法人 地域環境デザイン研究所 ecotone（京都市）
- ④ 豊中緑化リーダー会（豊中市）
- ⑤ NPO 法人 武庫川 ECO-LABO（尼崎市）

【次世代の育成】

- ⑥ NPO 法人 アトリエ・Petata（神戸市）
- ⑦ 一般社団法人 子育て園ぽかぽか（西宮市）
- ⑧ NPO 法人 JAE（大阪市）
- ⑨ 社会福祉法人 ストローム福祉会
エリザベス・ストローム記念 山王こどもセンター（大阪市）
- ⑩ NPO 法人 北摂こども文化協会（池田市）

<継続助成団体> 【地域環境づくり】※（ ）内の市名は主な事業の実施場所

- ① 一般社団法人 タウンスペース WAKWAK（高槻市）

【次世代の育成】

- ② NPO 法人 チャイルド・ケモ・ハウス（神戸市ほか）
- ③ NPO 法人 寺子屋プロジェクト（京都市ほか）
- ④ 六甲山を活用する会（神戸市ほか）

■助成金総額

827万円（内訳：従業員の募金413.5万円、当社からの上乗せ寄付413.5万円）

※助成金は、2021年3月29日に寄贈済み。各団体への助成額は添付資料を参照。

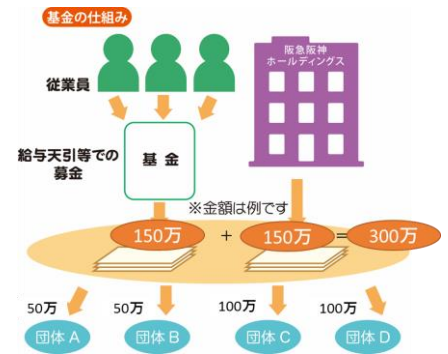
■「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」による市民団体の助成プログラムについて

阪急阪神ホールディングスグループの従業員の募金による積立金と、当社からの同額の上乗せ寄付を原資として、「地域環境づくり」または「次世代の育成」に取り組む阪急阪神沿線の市民団体を助成します。

プログラムの特徴は、①助成対象を阪急阪神沿線で活動する団体に特化していること、②助成金の半額がグループ従業員の募金によること、③当社グループが広報面でも協力すること、の3点です。

現在、約1,500名のグループ従業員が参加しています。

（ホームページ：<https://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/kikin.html>）



■本プログラムに込めた思い

どのまちにも社会における課題の解決に熱心に取り組む市民団体はありますが、その多くは規模が小さく、認知度も低いことから、ボランティアの人材がなかなか集まりません。また、活動を応援したい気持ちを持つ人でも、知らない団体に寄付することにはためらいがあるため、市民団体の活動資金は不足しがちです。

本プログラムでは、市民が身近な市民団体を応援するきっかけとなるよう、グループ従業員の募金を原資の一部として助成を行うとともに、グループが持つ交通媒体などを利用して助成する市民団体の活動を広報し、沿線の市民に紹介しています。

以上

【添付資料】第12回「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」の助成対象団体の概要

第12回「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」の助成対象団体の概要 ※部門分野別50音順

＜新規助成団体＞

※（ ）内の市名は団体事務所の所在地です。

※助成額は団体の申請に基づいて審査・決定しました。

■地域環境づくり

| | 団体名 | 活動概要 | 助成額 |
|---|---|---|------|
| ① | NPO法人 いけだエコスタッフ (池田市) | <p>～持続可能なまちづくりの提案～</p> <p>周辺地域の環境保全を図るため、主に4つの事業（地球温暖化防止活動、3R^(*)、再生可能エネルギー、環境学習）を横断的に行うことで持続可能なまちづくりを提案しています。地元小学校での「環境学習推進事業」、3R普及啓発イベント「食とリユースのマルシェ」、食と環境問題啓発のための菜食レストラン「3RキッチンVegan」などを実施し、主体的に持続可能なまちづくりを担う人材の育成に努めています。</p> <p>(*) 3R…リデュース (Reduce)、リユース (Reuse)、リサイクル (Recycle) の3つのRの総称。</p> | 50万円 |
| ② | 一般社団法人 京都竹カフェ (京都市) | <p>～放置竹林対策活動～</p> <p>竹に関心のある個人、民間団体、研究者、企業、行政職員などが集まり、連携して放置竹林対策活動を中心とした里山の保全を行っています。放置竹林を解消するために、プラットフォームの役割を果たすほか、竹を新たな産業資材とするための開発や竹の活用方法を市民に伝える活動、竹検定(年2回)、竹セミナー、竹まなびツアー、竹林マップの作製、木津川の竹筏下りなどを行っています。</p> | 50万円 |
| ③ | NPO法人 地域環境デザイン研 究所 ecotone (京都市) | <p>～地域循環型社会の支援・啓発活動～</p> <p>現在の大量生産・大量消費・大量廃棄の社会システムの変革を目指し、ライフスタイルの見直しを図るなど、環境共生型まちづくりを推進しています。大阪市や京都市内などでの祭りやイベントでリユース食器のレンタル、移動式の仮設給水機の設置などリデュース・リユースをキーワードとしたごみ減量の仕組みづくりとその実践を行い、「脱・使い捨て」そして「循環型社会形成」に向けた活動を推進しています。</p> | 50万円 |
| ④ | 豊中緑化リーダー会 (豊中市) | <p>～都市緑化の推進・啓発活動～</p> <p>花や緑のある美しく潤いのあるまちづくりを進め、快適な生活環境を実現するため、豊中市の「緑化リーダー養成講座」修了者が中心となって、都市緑化の推進や啓発活動を進めるとともに、地域の緑化活動や花いっぱい運動などのボランティア活動への参加および支援を行っています。その活動の中で、地域緑化のため、花苗を育成し、豊島公園を中心に花壇の育成管理を行い、市民の花壇活動グループやこども園などとも協働しながら苗を提供しています。</p> | 50万円 |
| ⑤ | NPO法人 武庫川 ECO-LABO (尼崎市) | <p>～地産地消の啓発と環境教育～</p> <p>尼崎の海で釣れる魚を釣り人から提供してもらい、食材として、こども食堂や市内の団体・飲食店に提供する事業を中心に、こどもが自分で釣った魚を捌いて食べる食育イベント、環境教育の講師、水質測定などを行っています。綺麗になりつつあり、美味しい魚も住む、尼崎の海の現状を多くの人に知ってもらうことで、地元の魚を食べてもらう契機となるよう、その機会の提供に努めるとともに、こども達が地元・尼崎の海を誇りに思えるよう活動を展開しています。</p> | 50万円 |

■次世代の育成

| | 団体名 | 活動概要 | 助成額 |
|---|---|--|------|
| ⑥ | NPO法人 アトリエ・Petata (神戸市) | <p>～社会課題に関する絵本の読み聞かせとアート制作～</p> <p>幅広い年齢の子ども達を対象に、SDGs・防災などをテーマにした絵本の読み聞かせを行い、そこから広がるイメージをアートとして表現することで、難しくとらえることなく理解を深め、体得する機会を提供しています。具体的には、SDGsや防災に関する絵本の読み聞かせとアート制作イベント、子ども病院での読み聞かせと簡単工作イベント、絵本と工作の『えほんのひろば』、絵本講座など様々なイベントを開催し、次世代の育成に努めています。</p> | 50万円 |
| ⑦ | 一般社団法人 子育て園ぽかぽか (西宮市) | <p>～地域と連携した多様な子ども達の第2の家～</p> <p>行事、遊びの継承、自然体験を大切に、垣根を超え、地域の協力を得て、子育て支援を行う小規模保育施設と障がい児通所施設を運営しています。夏祭りや餅つき大会などの行事を自治体等と協働で開催し、その場を地域の方にも開放し、子ども達と地域の方々の関わる機会をつくることで、「地域ぐるみの子育て」の意識を高め、インクルーシブ(包摂的な)社会の実現に向けて、「共に生きる」の理念のもと、誰もが必要とされ、認められて生きる場となることを目指しています。</p> | 50万円 |
| ⑧ | NPO法人 JAE (大阪市) | <p>～子ども達の「未来を切り拓く力」を育む活動～</p> <p>“自分や社会の未来”を切り拓くための課題解決力、チームワーク力などを育むため、企業や地域と連携しながら、キャリア教育プログラム、インターンシップなどを小学生～大学生等を対象に展開しています。これからは、SDGsや社会課題を“自分ごと”と捉えて行動する力を育むプログラムの実施とプラットフォームづくりに注力して取り組む予定です。</p> | 50万円 |
| ⑨ | 社会福祉法人 ストローム福祉会 エリザベス・ストローム記念 山王子どもセンター (大阪市) | <p>～困難な状況下の子ども達の多世代交流を通じた居場所づくり～</p> <p>こどもの遊び場、活動の拠点として異年齢児童のふれあいを深め、日常生活および行事などを通じ社会性を高めるなど、児童の健全育成を願う児童館を運営しています。幼児から小学生だけでなく、中高生も大人も地域や障がいの有無に関わらず「誰でも来られる場所」を目指しています。多様な人が足を運ぶため、子ども達は自然と「多様性」について学ぶことができる場所となっています。</p> | 50万円 |
| ⑩ | NPO法人 北摂子ども文化協会 (池田市) | <p>～子ども達の多様な実体験支援～</p> <p>こどもの心が豊かに育つために必要な基盤である安全・安心を守る地域づくり、こどもが自分の興味・関心に応じて自由にのびのびと過ごし、好奇心の赴くままに様々なことに挑戦して、他者と協働しながら物事をつくりあげていく体験の場、文化芸術の鑑賞や体験の機会を提供しています。19年間実施している「いけだ夢燈花(ゆめとうか)」は地域の方々と子ども達の交流の場となり、子ども達を見守るきっかけづくりにもなっています。</p> | 50万円 |

<継続助成団体>

※（ ）内の市名は主な事業の実施場所です。

※助成額は団体の申請に基づいて審査・決定しました。

■地域環境づくり

| | 団体名 | 事業概要 | 助成額 |
|---|--------------------------------------|---|-------|
| ① | 一般社団法人 タウンスペース WAKWAK (高槻市) | ～地域住民の声を反映したコミュニティの再生～ 大阪北部地震後の災害支援を通じて、情報格差の課題や、独居高齢者、障がい者、一人親世帯などの要援護者が社会的孤立に陥りやすいという状況がわかりました。そこで、高槻市がすでに方針を決定した市営住宅の建て替えに向け、こども・若者・高齢者など、まちに住む多様な人たちの声(ニーズ)をひろい上げ、まちづくりプランを策定し、今後のまちづくりの計画へとつなげます。また、建て替え後の地域コミュニティの中心となるコミュニティスペースをたち上げ、多様なセクターとの協働によりハード面・ソフト面からコミュニティの再生を図る予定です。 | 100万円 |

■次世代の育成

| | 団体名 | 事業概要 | 助成額 |
|---|--------------------------------------|--|-------|
| ② | NPO法人 チャイルド・ ケモ・ハウス (神戸市ほか) | ～重い病気をもつこどもと家族のサポーター育成事業～ 重い病気をもつこどもと家族にとって、治療以外にも日々の生活、友達関係、通学など多岐にわたる支援が必要です。そのため、どこにも相談できないと思ってしまうような問題でも「あのね」と気軽に相談を始められ、その中からニーズをひろい、分野を超えた支援をコーディネートできる人材が求められています。その重要性はまだ広く理解されていません。そこで、こどもや家族からの相談を聞き、ニーズをコーディネーターにつなぐ人材「地域あのねサポーター」と分野を超えた支援をコーディネートする人材「あのサポ plus」を育成する予定です。 | 67万円 |
| ③ | NPO法人 寺子屋 プロジェクト (京都市ほか) | ～魅力的なプログラミング体験の提供と開発教材のオープンソース化～ プログラミング教室の人気が高まっていますが、その多くが経済的にゆとりのある家庭向けのサービスとなっています。また、大多数の小学校で触れるプログラミングの内容は、非常に限定的なものになるとみられます。そこで、公立の小学校などとも連携し、こども達が楽しめるプログラミング体験を提供するとともに、日常的に活用できる教材モデルを開発し、開発した教材をオープンソースとしてWEB上に無償で公開することで、全てのこども達がサービスを享受できるようにする予定です。 | 60万円 |
| ④ | 六甲山を 活用する会 (神戸市ほか) | ～六甲山における自然体験プログラムの自主運営チームづくり～ 当団体では10年以上かけて国立公園内の六甲山上に自然体験ができる場として「まちっ子の森」を整備してきましたが、その管理・運営を次世代に継承していくことが今後の課題となっています。そこで、自然児を育む自然体験プログラム「まちっ子の森デー」の参加者を増やすとともに、「まちっ子の森クラブ」を発足させ、登録者を募ります。その中から、運営に参加できる保護者グループを集め、ゆくゆくは「まちっ子の森」を自主運営する組織をつくる予定です。 | 100万円 |